

医療用語なるほど辞典

—ヘルスケアのデカメロン—

目 次

第1話	変化する医療用語	1
第2話	変化する医用単語の翻訳	3
第3話	hospitalとclinicの語源	6
第4話	acuteとchronicの違いは…	9
第5話	「悪性新生物」とはどんな生物？	12
第6話	「オペ」は外科医の「手芸」!?	15
第7話	「救急車」は「歩く病院」だった!?	17
第8話	「本来とは異なる変なお仕事」…	20
第9話	アトピーとアナフィラキシー	23
第10話	「プラセボ」は「偽薬」というけれど…	26
第11話	「虚弱」より「フレイル」と呼ばれたい？	29
第12話	「デング熱」は天狗さまの祟りか？	31
第13話	ペニス笠持ち ホーデンつれて…	34
第14話	「腸内フローラ」のお手入れを！	37
第15話	タナトスとヒュプノスは双子の兄弟	39
第16話	「ロコモ」って蒸気機関車のこと？	42
第17話	「3クール目」の化学療法って？	45
第18話	「レジメン」「プロトコル」ってナニ？	48
第19話	折れない心は「レジリエンス」なり！	51
第20話	「セックス」は「結合」ではなく「分離」？	53
第21話	「ユマニチュード」は情 <small>こころ</small> に沁みる！	56
第22話	「モニター」は“monster”だった!?	59
第23話	「レセプト」と「レシート」は同じ？	62
第24話	「カテーテル」も「ストロー」も細い管ですが…	65
第25話	ノーベルが発明した「あるもの」とは？	68

第26話	哲学者“プラトン”と“血小板”の共通点？ ……………	71
第27話	「リスペクト」と「レスパイト」の共通語源とは？ ……………	74
第28話	「ロボット」の心は“AI”で育まれる!? ……………	77
第29話	パーソナリティの起源は「仮面」だった！ ……………	79
第30話	「国会」のことも「ダイエット」と言うけれど… ……………	82
第31話	「アクメ」や「オーガズム」の語源について ……………	85
第32話	“study”を「勉強」と訳すのは止めよう！ ……………	88
第33話	「スタミナ」と「運命の女神」は“糸”でつながっている!? ……	91
第34話	「亀の頭」か、「どんぐり」か？ ……………	94
第35話	匍匐 ^{ほふく} して広がる「ヘルペス」の正体とは？ ……………	97
第36話	<i>Homo sapiens!</i> (ホモ・サピエンス) ……………	100
第37話	「テーブル」が小さくなって「錠剤」に？ ……………	103
第38話	「チキユウ」は青かった!? ……………	106
第39話	危篤時は「命の印」が赤信号！ ……………	108
第40話	「センテナリアン」になりたいですか？ ……………	111
第41話	カラスより上手に「ケア」ができますか？ ……………	114
第42話	「キュア」は時折、「ケア」は常 ^{とこ} しえ！ ……………	117
第43話	「栄養士」の語源はオッパイあげる人？ ……………	120
第44話	「劣性」より「潜性」と言われるほうがいい!? ……………	123
第45話	風や空気が「スピリチュアリティ」をつくった!? ……………	126
第46話	カルテ中の“do”と“#”は何て読むの? ……………	129
第47話	イメージは「茸」「イカ」それとも「イソギンチャク」? ……	132
第48話	その「生きづらさ」は「アディクション」かも? ……………	135
第49話	「雲」をあやつる魔術師が「ネブライザ」? ……………	138
第50話	これを読めば、「コンチネンス」が漏れなく当たる!? ……	141
第51話	「health」を「養生」ではなく「健康」と和訳した訳 ^{わけ} ……………	144
第52話	「パラサイト」は「食卓への招待客」だった! ……………	146
第53話	「オナニー」知っていますか? していますか? ……………	149
第54話	「トワレ」で名乗るもおこがましいが… 「トイレ」のお話 ……	152

第55話	「生食」って「ノーマルな塩水」のこと!?	155
第56話	あなたの「アキレス腱」は何ですか?	158
第57話	「マスク」を信じますか?	161
第58話	“polypharmacy” の和訳……「多剤併用」では不十分?!	164
第59話	なぜ医者は“white coat” (白衣) を着るのか? ……	167
第60話	「飛行機」と「エアロビクス」の共通点は? ……	170
第61話	「エコー」と新幹線「こだま」の切なさ ……	173
第62話	脱腸は「鼠」が通った場所に起こりやすい! ……	176
第63話	タモリさんは自称「高所恐怖症」 ……	179
第64話	「トリアージ」って、3つに分けること? ……	182
第65話	「ヘリコプター」と「ピロリ菌」 ……	185
第66話	「サバイバル」、語源的には「超生」のはずが… ……	188
第67話	「コロナウイルス」って「王冠をかぶった毒」のこと!?	191
第68話	動脈は「広すぎ」も「狭すぎ」も良くない! ……	194
第69話	「チーム医療」や「コラボ」、そして「IPW」 & 「IPE」へ	197
第70話	「ゴールド」と「ゴールデン」、どっちがより輝いている?	200
第71話	“social distancing” と “social distance” は似て非なるもの!	203
第72話	“psychotherapy” の語源は「魂の世話」 = 「哲学」!?	205
第73話	“pet loss” は和製英語だけど、英語として通じる!	208
第74話	「命の星」は救急救命のシンボルだ!	211
第75話	“music therapist” って誰? ……	214
第76話	「オイディプス王」のどこに「浮腫」があったか? ……	217
第77話	「マルチトリートメント」は「O (マル)」ではなく「X (バツ) トリートメント! ……	220
第78話	「コーチング」の答えは、自分の中にある!	223

第79話 「副作用」と「有害事象」の違いは？	226
第80話 「人生会議」しませんか？	229
第81話 「37兆」という数、さて何の数でしょう？	232
第82話 「オープンダイアログ」って何？	235
第83話 「ヴィーナスの病」って何？	237
第84話 “LGBTQ+”を知っていますか？	240
第85話 “ICD-10からICD-11へ”って、何？	243
第86話 “ファシリテーター”がいても「会議は踊る」のか？.....	246
第87話 “クリニカル・イナーシャ”とは？	249
第88話 あなたも「ラビリンス」を持っています！	252
第89話 「カタカナ語」と「頭字語」が社会を変える！	255
第90話 「愛情ホルモン」って「オキシトシン」のこと？	258
第91話 「たんぱく質」と「タンパク質」、そして「蛋白質」の使い分け	261
第92話 「流れもの」と言えば「リウマチ」?!	264
第93話 リチウムの語源は「石」.....	267
第94話 「センター」の語源は、チクリと刺す「針」！	270
第95話 “ <i>sign language</i> ”って何？	274
第96話 「ミトコンドリア」は母からだけの贈り物	277
第97話 日本における医療DXの遅れ…挽回なるか？	280
第98話 「白衣の天使」による最期のケアが「エンゼルケア」！ ..	283
第99話 Safety- I、Safety- IIそして「レジリエンス・エンジニアリン グ」の三題ばなし	286
第100話 “WAI”と“WAD”のはざままで、Safety- Iに病みSafety- II を処方する	289
単語と語句（発音）：意味	293
索引（五十音順）	314

ヒトと他の動物との違いは何だと思いませんか？

直立二足歩行や大きな脳など…、いろいろな違いがありますが、ここでは「言葉」に注目します。ヒトは言葉を使う動物です。そして、今から約6千年前に言葉を記録する「文字」というものを発明しました。文字の登場は知識の蓄積と継承を可能にしました。



カルテの語源

現代の医療現場で記録と言えば「診療録」です。英語でmedical record (メディカル・レコード) といい、medicalは「医療の」という形容詞でrecordは「記録」という名詞です。文字通り「医療の記録」→「診療録」となります。「電子カルテ」はelectronic medical record (イレクトロニック・メディカル・レコード) といいEMRと略されることもあります。ちなみに、recordの語源は「re- (後ろに、戻って、再び)」+「cord (心)」→「何度でも心に思い浮かべることができること」です。

日本では「カルテ」という用語が今も主流ですが、これはドイツ語のKarte (カルテ) に由来しており、英語では「カード」を意味します。しかし、ドイツではKarteを「診療録」の意味では使っていないと、最近までドイツ留学していた友人から聞きました。第二次世界大戦前にドイツ留学した医師達が、患者の状態や経過、処方内容、検査結果などを記録したカード状の一覧表を「カルテ」と呼んでいて、帰国後、その「カルテ」という語を「診療録」の意味で使い始めたので

はないか、と想像しています。蛇足ですが、「カルタ」はポルトガル語cartaから、「カード」や「チャート」は英語のcardやchartからですが、それらはすべてラテン語のcharta（カルタと発音：紙、パピルス、文書）を語源にしています。



独から英？

病院によっては、現在でも「明日Ent」とか「Ent後、初外来」などの記載がカルテに見られます。Ent（エント）というのは、ドイツ語の動詞entlassen（エントラッセン：退院させる）から最初の3文字を取ってきたものですが、日本の医療界では「退院」と同義に使われています。明治維新後、西洋医学がドイツ語とともにわが国へ入ってきたことが伺えます。

しかし、第二次世界大戦後は米国が政治経済、軍事力、医学を含む科学領域において圧倒的な主導権を握ってきた影響で、最新の科学・医学情報は英語で入ってくるようになり、ついには英語が医療分野における世界共通語になりました。私たちが使っている医療用語の略号（例えば、BPはblood pressure：ブラッド・プレッシャー、「血圧」のこと）等、そのほとんどは英語由来です。



医用英単語を覚えよう！

現在、あなたの病院やクリニックでは、カルテは英語で書かれているでしょうか？ 幸なことに（？）そうではないと思います。

電子カルテの導入が進み、チーム医療が声高に叫ばれている昨今、より一層の医療安全を実現するためには、医療スタッフ相互の意思疎通が「カギ」になります。医療情報を皆で理解し共有できるように、カルテは母国語である日本語で記載されるべきでしょう。とはいえ、

英語由来の用語が多数存在している現実があります。医事を専門にしているあなたにも、医用英単語に関するある程度の知識・教養が求められているとも言えます。

言葉は絶えず変化しています。医療用語も例外ではありません。



今回は「精神分裂病」から「統合失調症」、「痴呆」から「認知症」、そして「看護婦」から「看護師」へと呼称表現が変わってきたこと等を取り上げます。

これから、医療の言葉についてあなたと一緒に考えていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。



Let it be. (ビートルズの曲名)
“あるがまま” がいちばん強い！

002

変化する医用単語の翻訳

『医事業務』2013年10月15日 (No438) 掲載



諸行無常

あなたは『^{ほうじょうき}方丈記』というエッセイを読んだことがありますか？

作者は鴨^{かも}長明^{ちやうめい}という人で、今から800年前に書かれたものです。

「ゆく河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず」という有名な書き出しから始まります。「諸行無常」を理解するための入門書として、今日までずっと読み継がれてきました。この世ではすべてが「常に変化している」こと、確かなことなど何もないことを悟りなが

らも、作者は「自分」についてあれこれとぼやいています。変化の激しい現在を生きる私達にも通じるものがあるように思われます。この際、ご一読をお勧めします。



変化する言葉

『方丈記』の例とは ^{おもむき}趣 を異にしますが、「医療の言葉も常に変化」しています。例えば、2002年8月より「精神分裂病」という病名は「統合失調症」へと改名されました。その病名に対する偏見が著しいとの患者・家族団体等からの苦情に配慮した変更でした。もともと Schizophrenie (シツォフレニー) というドイツ語を明治時代に「精神分裂病」と訳出して以来、長らくその病名が使われてきました。英語ではschizophrenia (スキツォフリーニア) といい、語源分析すると「schiz/o(分裂した) + phren/o(横隔膜、魂、精神：古代ギリシャ時代より西洋では、心や魂が横隔膜あたりに存在すると信じられていた) + -ia (状態)」→「分裂した精神状態」→「精神分裂病」→「統合失調症」というように変化してきました。一方で、世界で通用しているschizophreniaという英単語の方には何の変化もありません。

同様の例に「痴呆」から「認知症」への改名があります。2004年の厚労省の用語検討会での結論に基づき、「痴呆」は「認知症」と置き換わることになりました。英語ではdementia (ディメンシャあるいはディメンチアと発音) ですが、語源分析すると「de- (下に離れて、低い) + ment/o (精神) + -ia (状態)」→「低下した精神状態」→「正常だった認知機能・精神機能が低下した状態」→「認知症」と理解できます。dementiaのスペリングの中にあるmentの部分は、mental health (メンタル・ヘルス：精神衛生、メンタルヘルス) のmentalのmentと同じ「精神、心」という意味です。



性別を越えて

そして、2002年3月からは「看護婦」から男女の性別にかかわらず「看護師」へと法律上の表現が変わりました。それ以前は、女子については「看護婦」と呼び、男子については「看護師」と規定していました。あれから20年以上が経過しました。今では「看護師さん」や「師長さん」という表現がすらすらと口をついて出てくるようになりました。ちなみに「看護師」のことを英語でnurse（ナース）といいます。nurseも性別に関係なく使える単語です。“He is a nurse.”もあるのです。nurseの語源は「乳児に授乳する人」で、もともとは女性を指す言葉だったと思われます。ただし、語源に忠実になりすぎて、nurseという言葉で、患者に「おっぱいをあげる人」と誤解してはいけません。「授乳する人」→「乳幼児を世話する人」→「病人をケアする人」→「看護師」の意味になったと理解できます。

医療の言葉もいろいろと変わってきているのです。



蛇足ですが、医療従事者の呼称には慣例により語尾が「…師」または「…士」で終わる2種類があります。それぞれいくつ正確に書けますか？

例えば、「…師」→医師、歯科医師、助産師、放射線技師、保健師、薬剤師、臨床検査技師など。「…士」→介護福祉士、管理栄養士、義肢装具士、救急救命士、言語療法士、作業療法士、視能訓練士、歯科衛生士、歯科技工士、社会福祉士、精神保健福祉士、理学療法士、臨床工学技士、臨床心理士など。

専門職名の語尾に「師」と「士」が混在しているのは、歴史的あるいは社会的背景（男女平等の観点等）が影響しています。明治時代以